

ちょっとだけ!!
フライングディスク
将来構想会議
2020

将来構想メモvol.14(2020/12/22)

Flying Disc Times
presents

<ゲストプロフィール>

森山真稔

活動拠点: 関東時々関西筑

所属: JFDA / CREWS / JAVA

関わり方: 協会役員 / ゲームアドバイザー / プレイヤー

大野千尋

拠点: 関東地区

所属: 山葵

関わり方: アルティメットを中心に競技者として楽しみながら、SOTGやダイバーシティ&インクルージョンの視点でディスク界を支える。

<フライングディスクをこうしていきたい>

- ・SOTGのイベント(マンスリーミーティング、SOTGデーなど)は常に根底にあり続けなければならないもの
→インフラ(いつでもアクセスできる身近なもの)として存在し続ける
- ・SOTGの現状として、GAがグローバルスタンダード(海外のSOTGへの意識)を日本に輸入してきたことで国際大会当で日本はSOTGで高い評価を得ることができた
→今後は日本がそういった文化を世界に伝えられる存在になることを目指したい

①ディスク競技の中で、今までにJoy of playを感じたことはありますか？
また、どんな場面ですか？

→競技中に限らずあらゆる場面で感じることができる

例1) 競技志向の高い試合のような場面だけでなく「ディスクを投げている状態」

例2) 自分、チーム、対戦相手、観客と範囲を広げていくことで感覚が変わっていく

例3) チームスタッフやマネージャー、協会役員という「ディスクを投げない」役割でも楽しみ方は無限大

**②自分自身やチームにとって、SOTGで目標にしていることはありますか？
また、課題にしていることはありますか？**

・スコアの付け方

→点数で伝わらない思いを伝えてあげることが大事

・実際、SOTGを気にしながらプレーはしているのか？

→そこばかり気にしてプレーできない。無意識にフェアプレーができるようになるには？

→練習から気にする。それに伴うコミュニケーションが大事。

・プレースタイル: 身体接触を前提とした選手

→ストーリング、うわ是り、ハンドラーのDFなど

→技術において身体接触ありきのプレーはあっていいのか

①SOTGのイベント(マンスリーミーティング、SOTGデーなど)は常に根底にあり続けなければならないもの

→インフラ(いつでもアクセスできる身近なもの)として存在し続ける

- ・毎月Monthly Spirit&Rule Meetingを開催
- ・GAシステムの導入、SDやSC設置
- ・SOTGをブーム(一過性)ではなく、継続していきたい

→地道にやっていくことで、こういうことを考えてみたいと思った時に、知れる機会
=水道のように、必要な時に水が出てくるような仕組み

例)大学生プレイヤーや初心者にありがちな「SOTG=ルール理解」という概念を払拭する必要がある

→一般という言葉も、共通って言葉も、人によって違う。みんなが共通の理解を作るには、安心感を作るにはどうするべきなのか

・**現状維持だけではなく、日本の外にも目を向けている**

→WU24の時に指摘されたことをきっかけに、海外のキーパーソンたちと繋がって日本の中で浸透させていくことを重視

→それによって日本のスタンダードは向上した

・**日本の中で良い活動をして、海外にも広げていきたい**

例としてSOTGdayのサミットをやったり、言語化しておしゃべりをして、それを翻訳して出すのもやってみたい

→それをやるには、英語ができたり、外の人とコネクションを作って行こうとする人材が必要

参加者写真

担当メンバー: 田中 花弥乃

